

とづくり、またそれを支える人づくりを目的に平成三年に旗揚げされたものです。この塾からは矢吹飛行場跡記念碑の建立や御猟場構想など、まちおこしの活動が広がっています。

ふるさと教育を 原点に、矢吹への 郷土愛を育む

渡邊 ● まちづくりの基本は、地域の方が一心同体となつて郷土愛をもつことですよね。社会教育と学校教育と家庭教育、もう一つがふるさと教育なんです。これから自分たちが住む町だから皆で愛して皆でつくりあげていこう、という意識が大切ですね。私たちの「御猟場構想推進協議会」では歴史的な史実を基に、「矢吹町はどんなところ？」と聞かれたときに「きじの里矢吹はこんな町だよ」と言えるようなま

大木 義正さん

生花店経営。「やぶきペガサスクラブ」で地域づくりに関わるための自己研鑽を目的に、定期的に勉強会を行う。PRしたい場所は作品展示等を行うふるさとの森芸術村。



小川 知一さん

会社員。やぶき響の会長として矢吹町文化センターでの音楽会等企画運営を行い人的交流を図る。大池公園の美しい景色のなか、ウォーキングを楽しんでいる。



これからの100年
豊かな矢吹町をめざして



ちづくりを進めています。子どもたちに郷土愛をもってもらうきっかけづくりなんです。町民の方々にふるさと教育というものを理解していただいて継承していけば、将来子どもたちも矢吹町に住んで努力してくれるだろうし、すぐに花が咲かないとしても、その努力は評価されると思います。町長 ● 町の第四次振興計画のなかに三つの柱があります。まず、人づくりという意味の「教育」。学校教育に限らず、公民館、図書館の活動、また御猟場構想など様々な意味での教育を個々の価値観を大切に行っていきたいと思っています。一つ目の柱としては「福祉」。子どもたちの健全な成長のために、また高齢者が元気に生活できる町にするために施策を講じたいと考えています。そして三つ目は「町民の生活」です。施設設備の充実などと同時に、

精神面での豊かさも考えていかなければなりません。この三つの柱を元に町民の幸せのため、たくましい町民の姿がみえる矢吹町を皆さんと一緒につくっていきたいと考えています。

国島 ● 私はワークシヨップ方式でまちづくりを行うという手法を学び、現在「みらいクラブ」で実践しています。これからは協働のまちづくりが基本になると思います。例えば何かを建設するにも町民に情報公開をして、必要な施設かどうか意見を聞ける矢吹町になれば、これから百年にわたって良い町になるのではないのでしょうか。

まちづくりは人づくり 活動の輪が 町民をつなぐ

小川 ● 「やぶき響の会」としては素晴らしい文化センターを利用